

**第3期八戸市中心市街地活性化基本計画
変更に対する意見書**

令和4年12月

八戸市中心市街地活性化協議会

新規追加となった事業は、八戸ポータルミュージアムにおける感染対策機器の導入と中心街におけるデジタル化事業であり、いずれも来街者の増加を図る上で必要な措置であると思われる。

とりわけ、「八戸AI（アイ）中心街・バス活性化プロジェクト」は、関連性の高い5つの事業で構成されており、八戸市のデジタル化推進にも寄与するものである。そのため、事業実施にあたっては、各事業の連動による相乗効果を期待するものである。

なかでも、「バスICカードポイント付与システム・キャッシュレス決済システムの開発」については、使いやすくわかりやすいサービスとなるように関係する事業者と調整の上進められたい。

「AIカメラの設置及び人流分析システムの開発等」については、バス路線最適化とともに、歩行者通行量調査の効率化など、広範な用途に活用できる費用対効果の高いシステムの導入が求められる。

このほか、ポータルサイト「はちまち」運営主体が変更となっているが、当該サイトの性質に鑑みて、更に独自性の強い記事の制作やフレキシブルな中心市街地の情報発信につながるとと思われる。

八戸市におかれては、今後も当協議会と密に連携を取っていただき、基本計画に掲載している事業を推進されたい。

八戸市中心市街地活性化協議会

会 長 武 輪 俊 彦